

令和7年「明日の新宮地区を語る会」の振り返り

新宮まちづくり協議会環境安全部会

記録:三野島

1. 概要

令和7年7月5日（土）16時から、新宮集落センターにおいて、「いま何が大切か」をテーマに75名の皆さんと田中明高山市長にご参加いただき、持続可能な新宮地域を目指し、地域の様々な課題や自主的な取り組みから、今後に向けどどのような取り組みが必要かについて活発な話し合いが行われ、終了後懇親会が行われた。

新宮地域は、自然豊かで、川上川の清流や文化財が多く、原山市民公園、松倉シンボル広場を新宮まち教で管理運営するなど、豊かな地域資源を有している。そのような中、想定外の災害への対策、人口減少による担い手不足、町内会の従来の取り組みへの改革、若者の流出(若者が地元に残りやすい環境・故郷に戻りたいと思える環境)、結ネットの活用、婚活、高齢者の交通手段、子育て等行政サービスの充実・補助支援、豊かな風景（自然）の保護など、様々な課題について議論がされた。

今後は、新宮まち教が課題解決【持続可能な新宮地域まちづくり】に向けての自主的な取り組みの他、高山市と連携し積極的な取り組みにつながるよう展開を進める。

① 参加者内訳

町内名	語る会	懇親会
八日町前原町	13	12
新宮町	14	14
下之切町	13	13
山田町	8	7
新星町	6	5
夕陽ヶ丘町	2	2
自由ヶ丘町	7	7
下林町	10	9
新原山町	0	0
その他	3	3
<u>合計</u>	<u>76</u>	<u>72</u>

② まち教の意見交換からの課題内容

- ・災害に強いまちづくり(町内と防災士の連携)→防災士を増やす、防災備品の確保(公民館・各家庭)、危険個所の再点検、指定避難所までの誘導など自主防災組織の強化

- ・人口減少→移住の促進、生業(なりわい)を増やす。
- ・遊休農地の増加、高齢化に伴い担い手が少なくなつていて→地域計画(地域農業経営基盤強化促進計画:地域農業の未来をまとめる計画)の具現化、米の高騰など食糧問題への関心(農業への関心)を増やす。
- ・少子化→子育て支援の充実化
- ・独身者の増加→婚活への支援
- ・介護者の増加→健康寿命を延ばす取り組みの強化
- ・子ども達が都会に出て行く(跡継ぎ不足)→地域の担い手不足解消のためにふるさとへ戻る取り組み
- ・町内活動の取り組みについて、町内会会員の多様化→変えるものと変えないものの情報の共有:不易流行、従来の取り組みや環境を改革(組織の見直し)を進めることが必要
- ・祭りの継承→大事な歴史文化を守るために、効果的な継続のために町内会と連携
- ・町内会の中で、交流が少ない。→夏祭りの再会
- ・若者の環境の改善が必要。(賃金が安い。)→就職活動への支援
- ・高齢者の増加→のらまいか(バス)の活用、移動への支援
- ・防災士が多い町内(10名)、見守り隊の活動が大切→防災士との連携
- ・水道の断水が想定される事案が発生した。→水道の重要性認識(突発災害への取り組み強化)
- ・コミュニティの希薄化が想定される中、地域活性化に向け夏祭り(花火)などに、まち教からの助成も検討できないか。
- ・婚活への取り組み→高齢者バージョンをやってほしい。
- ・町内コミュニティの希薄化→もっと活動を盛んにした方が良い、町内会を抜ける人を減らす、町内会活動の推進や挨拶運動が大切、町内会の標語を作る
- ・外国人も町内会へ参画→企業と町内会の連携
- ・町内会住民の安全確保→結ネットの活用強化、住宅街での熊の出没から獣害対策強化
- ・空き家の増加→公園整備、市の防災強化
- ・高齢者の移動手段→タクシーの割引制度の充実
- ・人手不足→職場体験・地域体験ツアーなどにより担い手確保、若者のボランティア活動体験
- ・若者が市外の大学へ行き、戻って来ない、地元を離れてしまうなど、少子高齢化が進んでいる。可能性を延ばすことも大切、一方で担い手不足に拍車がかかり人口減少→飛騨高山への道路アクセスの解消(時間短縮)、子育て等への支援サービスや住宅の確保のための補助制度の充実化
- ・実りのある暮らしやすい地域→税負担の軽減や各支援制度の充実化
- ・農地や施設園芸のハウスが多い中、耕作放棄地や担い手不足が発生→地元の農事組合法人が対応
- ・若者は高山市外へ就職が多い中、地元担い手の出会いの場が少ない→婚活の推進
- ・田んぼは災害防止に一役かっている、地域を守るには農地を守ることが大切。
→災害防止に田の維持は重要(若者に田を守ってほしい)
- ・高齢化による免許返納→移動等の生活支援
- ・独居老人の増加→町内会での見守り活動の強化

- ・新宮校下は自然豊かな地域→引き継ぎ守ってほしい

③ 語る会に参加し、市長からのコメント

- ・熱心なまちづくりに対する意見交換、今後に向けての対応策に参考になった。
- ・自分の住んでいる空町は、高山でも高齢化が進んでいる。人口減少は、東京以外全部の地域で課題。
- ・高齢者の生活のための移動が大きな課題となって来る。
- ・他の地域から必要以上に高山に住んでもらうのは避けたいが、若者にはふるさとへ帰ってきてもらいたい。
- ・子どもに、育った環境を大切にして、地元ふるさとに戻って来るようになら。
- ・子育ての支援は、積極的に行っているが、市役所とまち教とのギャップがあると感じた。
(行政サービスがしっかりと届いていない部分があると感じた。)
- ・働き場所の確保については、お仕事発見隊などが活動している。
- ・若者が帰って来ないという現象は、選択(帰る・帰らない)が若者にある。その中で、高山の魅力を伝えて行きたい。
- ・原山市民公園の大型遊具、野球場、市民プールなどハードの部分で市民ニーズに応えるよう場の提供に取り組んでいる。
- ・子育ての悩みについては、暮らしやすいよう原山市民公園の大型遊具の設置やその他支援措置を行っている。
- ・物価高の対応についても対策を進めている。
- ・税金は安い方が良いこと、逆に補助などはもらえるものは多い方が良いという意見があるが、行政サービスとのバランスの課題がある。
- ・意見交換からいたただいた課題については、令和8年度の予算確保につなげて行きたい。
- ・高山市全体の課題も含まれているので、今後も意見交換を行っていきたい。

④ まとめ

- ・新宮校下の未来のために、「今なにが大切か」を改めて認識し、各意見交換を実施した。
- ・新宮まち教の会員(住民)と行政が共に考え、効果的に課題を解決し、持続可能な新宮地域を目指すことが求められている。
- ・今回の語る会で出た意見や提案を情報共有する。
- ・今後のまちづくりに活かすよう、いろいろな視点から、人材を活用し、情報発信・課題への解決に向けて、豊かな新宮地域への磨き上げを、新宮まち教関係者の皆様にお願いしたい。